

甲状腺外科草子 70

気楽で軽い本 4：時代・歴史小説

杉野 圭三

時代小説、歴史小説とは？

時代小説と歴史小説の範疇は不明瞭である。歴史小説の中でも脚色が多く時代小説に近いものもあれば、史実に近いセミドキュメンタリー作品もあり、境界不明瞭である。例えば、日露戦争を題材にした司馬遼太郎の「坂の上の雲」と江藤淳の「海は甦る」を同じ歴史小説として評価することはできない。



歴史学者の磯田道史教授曰く「歴史小説は時代が分かるように描く文学、時代小説はその時代を借りて人間性の面白さ、喜怒哀楽を表現するもの。虚と実、フィクションだからこそ本物が見えてくる場合がある」



司馬遼太郎の作品群を時代小説に分類したら著者や愛読者から激怒されそうなので、歴史小説とさせていただきます。

時代小説の中でも吉川英治の「宮本武蔵」、「三国志」や中里介山の「大菩薩峠」は歴史的大作で映画化もされ国民に広く認識され、山本周五郎も長編、短編小説多数あり、大河ドラマや映画などにも取り上げられ、別格の古典的時代小説分野とも言える。

戦後の時代小説

数多くの作家がいるが、登場人物やストーリー展開がジメジメして爽快感のない暗い小説が多い。その中で群を抜いて面白いのが、池波正太郎である。

池波正太郎（1923－1990）、小学校卒業後、商店勤務や都職員を経て、劇作家「長谷川伸」に師事し小説家となる。その文章は簡潔・明瞭で、天賦の才を感じる。

「鬼平犯科帳」では実在の人物である旗本・長谷川平蔵を「火盗改め鬼平」として作り上げ、その配下や密偵たちの活躍を描いた。「剣客商売」では剣の名手「秋山小兵衛・大治郎親子」などの魅力的な登場人物を作り出し、ベストセラーとなった。これらは、TVドラマなどでも大好評となった。



これらのドラマに出演した加藤剛（1938－2018）や中村吉右衛門（1944－2021）の重厚な風格と貫禄は別格で時代劇ではその右に出るものはいない。



真田一族を描いた「真田太平記」は関ヶ原前後の歴史をたどりながら、魅力的な人物を配した池波正太郎渾身の大作である。真田幸村よりも兄の信幸（信之）に重点が置かれているところが面白い着眼点である。NHK 大河ドラマでも大ヒットであった。

最近の時代小説：

最近の小説で軽く、すぐ読める本を挙げる。



上田秀人：「この時代小説がすごい」というランキングに取り上げられた「奥祐筆秘帳」、「勘定吟味役」、「留守居役」シリーズなど多彩な作品がある。

今村翔吾：最近、直木賞を受賞し、マスコミから注目を集めた。「羽州ぼろ鳶組」シリーズは「火消」を題材とし、第一作の「火喰鳥」は重要人物の描き方が優れた娯楽小説である。

これらは、まさにマンガ並みで主人公が死ぬこともなく肩が凝らない軽い本である。

（一甲状腺外科医の徒然なる随想）

2023年7月19日